

◆ 実戦問題 13 ◆

(*)伊勢という女流歌人が、貧しさから救われるようにと太秦の*広隆寺に籠って仏道修行をした。そして歌を詠んだところ……。

その夜の暁の夢に、*貴き僧のおはしまして、汝が歌の*身にしてみてもおぼしめるれば、世に有りつべきほどのこと侍るべし。この暁、急ぎ(1)まかり出でね。もし道にて思はざること侍るとも、*いなぶ心あるべからず」とおっしゃるのを見(2)つ。あはれかたじけなく覚えて、(2)まかり出でぬ。

何となく苦しみままに、ある旧き堂の人もなくて侍りけるに立ち入りて、仏拝み奉らむとする程に、*輿、馬に乗りつれて、ゆゆしげなる人の通り侍りけるが、何とか思ひ侍りけむ、この堂に入り侍れば、伊勢すべきかたなくて、後ろの方へ行き侍るに、この中のあるじとおほしき僧の追ひ来て、「*かやうのこと、申すについて憚り侍れども、私の御告げ侍りて申すなむ。(3)我が住むかたさまをも*御覧ぜられ侍れかし」と、ねんごろに聞こえ侍れば、これをたがへむ事、仏のおほしめさむも恐ろしく覚えて侍るままに、「◎*なびく」「㊦ぬけり」。

法政大(文)

出題文

設問

問1 傍線a⑥「つ」の文法的意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- ①過去 ②完了 ③存続 ④強意 ⑤打消

問2 傍線(1)「まかり出でね」・(2)「まかり出でぬ」をそれぞれ現代語訳せよ。なお、「まかり出づ」は「退出する」という意味の動詞である。

問3 ◎「なびく」・㊦「ぬ」をそれぞれふさわしい活用形に直して記せ。

問4 傍線(3)とあるが、具体的にはどのようなことを言っていると考えられるか。二十字以内で説明せよ。

問5 この文章の内容と合致するものを、次の中から一つ選べ。

- ①伊勢は、寺を出たあとどんなことがあっても決してここへ戻ってはいけなと告げられた。
 ②伊勢は、お告げをありがたく思いながらも、ことの重大さを知りいやな気分となった。
 ③伊勢は、お告げに感謝するため、誰もいない古いお堂に立ち入り仏を拝もうとした。
 ④伊勢は、お堂の奥の方に行ったが、入ってきた立派な僧は伊勢に丁寧に話しかけた。
 ⑤伊勢は、自分の受けたお告げがこの僧に聞かれたことを大きな過失を犯したと恥じた。
 ⑥伊勢は、夢のお告げに背くよりこの僧の言葉に背く方が恐ろしいと思った。

出典

『撰集抄』巻八・二十五「伊勢広隆寺の歌の事」

『撰集抄』は、鎌倉時代の説話集。十三世紀後半の成立とされる。世の無常を悟って仏門に入れたと説き、出家遁世者の中に見出した「心澄む」人々の行いを描いている。かつては西行が自分の体験を描いたものと言われてきたが、作者は未詳である。

*伊勢＝平安時代前期に実在した女流歌人。生没年未詳。「三十六歌仙」の一人。

*太秦＝京都の西の郊外にある地名。現在の京都市右京区。

*広隆寺＝太秦に六〇三年に建立された寺院。

*貴き僧＝「仏」がこのような姿をして現れたのである。

*身にしてみてもおぼしめさるれば＝身にしてみてもすばらしくお思いになったので。

*いなぶ心あるべからず＝断る気持ちを起こしてはいけない。
 *輿＝乗り物の一種。人がかついだ。

*かやうのこと、申すについて憚り侍れども＝このようなことは、申し上げるにつけて気がひけるのでございますけれども。

*御覧ぜられ侍れかし＝ご覧になつてくださいます。

*なびく＝従う。気持ちが傾く。

単語チェック

- ☑ 貴し 形ク
 ☑ おぼしめす 動サ四
 ☑ まかり出づ 動タ下二
 ☑ ゆゆしげなり 形動ナリ
 ☑ ねんごろなり 形動ナリ